

## 1. 日米株式と円/ドルの推移

&lt;日本株&gt;



&lt;米国株&gt;



&lt;円/ドル&gt;



(注)チャートは過去1年

	単位	2011/12/30 (前年末)	2012/3/30 (前月末)	2012/4/20 (前週末)	過去3年高値		過去3年安値	
					水準	日付	水準	日付
日経平均	円	8,455.35	10,083.56	9,561.36	11,408.17	2010/4/5	8,135.79	2011/11/25
NYダウ	ドル	12,217.56	13,212.04	13,029.26	13,297.11	2012/4/2	7,938.98	2009/4/28
円/ドル	円	76.91	82.87	81.52	99.74	2009/5/7	75.35	2011/10/31

 過去3年高値・安値はザラ場ベース  
当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

## 2. 日本株市場 先週の振り返り

**小幅下落。週初、大きく下落して始まった後、週末にかけて持ち直す。**

先週の日本株市場は、週間ベースで日経平均が▲76.63円(▲0.80%)、TOPIXが▲3.54ポイント(▲0.43%)と小幅下落して引けました。業種別(東証33業種)にみると、海運業、パルプ・紙、非鉄金属など11業種が上昇する一方、証券・商品先物取引業、空運業、鉄鋼など22業種が下落しました。週明け16日の日本株市場は、先々週末にスペイン国債利回りが、入札を控え大きく上昇したことを受けて欧州債務問題への懸念が高まったことから大きく下落して始まり、日経平均は9,500円を割込む展開となりました。こうした中、①17日に行われたスペインの国債入札が無事終了したこと、②IMF(国際通貨基金)が2012年及び2013年の世界経済成長率の見通しを上方修正したことなどを受けて、18日の日本株市場は大きく上昇して始まり、日経平均は先々週末の終値を上回る9,600円台後半の水準まで回復しました。その後週末にかけては、日銀に対する追加金融緩和策への期待感から円安が進行したことなどがプラス要因となる一方、米国株市場が市場予想を下回る経済指標の発表を受けて、軟調に推移したことなどがマイナス要因となり、概ね横ばい圏で推移しました。

## 3. 今週の主な予定

日程	曜日	国・地域	項目		前回
4月23日	Mon	中国	PMI製造業	4月	48.3
4月24日	Tue	米国	S&P/ケース・シラー住宅価格指数(前月比)	2月	-0.04%
			消費者信頼感指数	4月	70.2
			新築住宅販売件数(年換算)	3月	313千件
			FOMC(米連邦公開市場委員会) 25日まで		
4月25日	Wed	米国	耐久財受注(前月比)	3月	2.2%
4月26日	Thu	日本	全産業活動指数(前月比)	2月	-1.0%
4月27日	Fri	日本	完全失業率	3月	4.5%
			全国消費者物価指数(除生鮮)(前年比)	3月	0.1%
			鉱工業生産(前月比)	3月	-1.6%
			日銀、政策委員会・金融政策決定会合		
			米国	GDP(国内総生産)速報値(実質 前期比年率)	1-3月

決算発表予定 他	日本	決算発表 : 4/24 花王、日本電産 4/25 ファナック、キヤノン、KDDI 4/26 任天堂、コマツ、JR東日本、JT 4/27 NTTドコモ、TDK、資生堂 新日本製鐵、ホンダ
	米国	決算発表 : 4/23 ゼロックス、4/24 アップル、アフラック、3M 4/25 キャタピラー、デルタ航空 4/26 クロックス、ムーディーズ、スターバックス、アマゾン・ドットコム

当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

## 4. 日本株市場 今週の見通し

週末に開催される日銀の金融政策決定会合が焦点となり、それまでは日米の経済指標や決算発表、FOMC(米連邦公開市場委員会)に一喜一憂する展開を想定する。ただ、市場参加者の日銀の追加金融緩和への期待感は相当高いため、資産買入基金の増額だけでは、材料出尽くしから円高・株安となる可能性が高い。

今週の日本株市場は、週末に開催される日銀の金融政策決定会合が焦点であることから、それまでは様子見気分が強い中、日米の経済指標や決算発表、24・25日に開催されるFOMC・バーナンキFRB(米連邦準備理事会)議長の見聞内容に一喜一憂する展開を想定しています。ただ、市場参加者の日銀の追加金融緩和への期待感は相当高いため、資産買入基金の増額だけでは、材料出尽くしから円高・株安となる可能性が高いとみています。経済指標では、米国で24日に発表されるS&P/ケース・シラー住宅価格指数、消費者信頼感指数、25日の耐久財受注、27日のGDP(国内総生産)速報値、中国では23日のPMI製造業、日本では27日の鉱工業生産が重要と考えています。また、米国の決算発表では、24日のアップル、25日のキャタピラー、日本では、24日の日本電産、25日のファナック、キヤノン、26日のコマツ、27日の新日本製鐵、ホンダなどに注目しています。